

飯山市美術館運営協議会 会議録

- 開催日 令和2年2月27日(木) 午後3時30分～4時50分
○開催場所 飯山市公民館101会議室
○参集者 委員：廣靖彦(会長) 丸山公人(会長職務代理) 吉越隆師 千坂経悦 森崎鉄兵
※3名欠席
市側：長瀬哲(教育長) 常田新司(文化振興部長) 佐藤千明(美術館長)
井端伸介(美術館係長) 小林隆子(美術館職員)

1 開 会

2 あいさつ

会 長： 大役を仰せつかっている。美術館には時々来ているが、いろいろな企画行われており良いと感じている。

市の灯籠まつり、集落の祭りの道具などを作り替えたりさせていただいているので、出来る限りお手伝いをさせていただきたいと考えている。

また、栄中学校から声をかけていただいて、この春から週に1日だけだが、美術の指導をさせていただくことになった。

いろいろご指導をいただきながら会長を務めたい。

教育長： 今年度は木原先生はじめいろいろな方の企画展でお力添えをいただき、ありがとうございました。

また新年度は、飯山市にとって大きな節目になると思われるのが正受老人の300年遠諱ということで、特別な企画を考えております。前回は白隠との関係で全国から遺墨を集めたが、今回は地元にあるものを中心にしっかり正受老人を捉えなおして、前回と同様にしっかりしたものを集めて、新たに今、正受庵の資料調査をしていて泥舟の書が8幅見つかったりしているので、そういうものを市民に紹介できる特別展になればと思っている。

またいろいろな面で委員の皆さんにお力添えをいただくと思うので、よろしく願いたい。

3 協議事項 ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

(1) 令和1年度事業について(報告)

事務局： (次第と資料のとおり説明)

会 長： 現在も大阪でお年寄りを対象とした教室を指導しているが、今年度企画展の木原先生の図録は大変喜ばれた。

委 員： 市内の小学校、中学校の生徒さん方は来館したか。

事務局： 学びのエリア秋まつりの二日間は大勢来館したが、期間中に入館は少なかった。

教育長： 信濃美術館移動展についても校長会でめったに見れないものが来るからとお知らせはしているがなかなか足を運んではもらえない。

委 員： 生徒を連れては来たいが、授業時間の中で来るのが難しい。足の問題もある。

委 員： 企画展はかなり前から計画していると思うので、早いうちから学校のカリキュラムに入れてもらえるような段取りをしなければ、単発的に手を打っただけでは出てきてもらえない。

(2) 令和2年度事業計画について

事務局：（次第と資料のとおり説明）

委員： 五郷研修館に来ている芸術家の方に小学校や中学校で出前授業をしてもらうことは可能か。

瀬島さんという方は大きいオブジェを造っているが、どうして大きいのか、創作とは何かといったことから教えてもらいたい。中学生を対象としたらどうか。

事務局： それは良いことだと思う。瀬島さんは教育現場での経験が比較的豊富であることから、可能であれば是非お願いしたい。

瀬島さんの作品は常識的な目で見れば、大きな飛行やタンカーのスクリーンに似た立体作品など、どうしてこれが芸術なのかという作品もある。作家のお話や直接作品に触れることができれば、子どもたちの美術の世界が広がると思う。本人に聞いてみたい。

会長： 例えば、十日町や瀬戸内海のほかいろいろところでアートフェスティバルが開催されているが、若い人は理屈抜きに作品に接することができるから、そのような機会があってほしい。

教育長： 五郷研修館の作家の皆さんの持っているものを是非ご披露いただきたいというかたちで進められないか。

委員： 現在、伝統工芸士さんに学校の授業時間の中で来ていただいているが、小学校や中学校のほうがそのような時間は設けやすいのではないか。

教育長： 以前、飯山小で東京芸術大学名誉教授の米林先生に授業をしていただいたことがあるが、あのようなかたちでも良いのではないか。

事務局： 依頼する以上は予算が必要である。

部長： 教育委員会に既決の予算がある。

教育長： 実現に向けて動いてほしい。

委員： 「飯山仏壇ゆかりの仏師たち」ではどのようなところから借りるのか。

事務局： 今回は市内にある作品のみでと考えている。

飯山に里帰りした仁王像についてのパネルなども展示できればと考えている。

(3) 令和3年度以降の企画展等について

委員： 最近時々、外国人の方々が2~3人あるいは家族で美術館に来ているようだ。外国の方が普段から文化的なことに親しみを持たせるような教育が進んでいるのか、公民館でも毎週教室に参加している人たちがいるが美術館に来ることに繋がって来ていないような気がする。

委員： 令和3年に開催を予定している和紙作家の森田さんはどこのご出身の方か。

事務局： 埼玉県出在住の作家である。

会長： この方は灯籠まつりの関係の方か。

事務局： 灯籠祭りというより、平成17年から19年の3年間開催された和紙の仕事大賞コンペティションで、大賞と優秀賞を2年連続で受賞された作家ということで取り上げさせていただいた。

会長： ここに来てずっと灯籠まつりに関わらせていただいている。最初の頃、岐阜の美濃のイベントを見に行ったら和紙の会館があるなどすごいと思った。灯籠まつりのときにも予算の問題がときどき出る。大賞賞金などにお金はかけられないので、中学生や幼稚園から持ち寄ってまず手作りを活かしていこうというかたちである。確かにコンペティションのようなものがあれば起爆剤にはなると思う。

(4) その他 ※特になし

8 その他 ※特になし

9 閉 会

館 長： 令和2年度は正受老人の300年遠諱の節目の年であり、3月議会でも文化振興部ではこの機会にどのような取り組みをするのかという質問も寄せられている。いずれにしても、運営協議会の皆様にご指導をいただきながら新年度事業についても着実に進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。